

会9周年の集い 2月22日(日) 午後2時から開催

記念講演は、片寄 俊秀・大阪人間科学大学教授に

街づくりの豊富な実践から宇治の街づくり(治水、景観、環境問題)を 考える新たな視点を提起していただきます

2000年2月に「阪神大震災の教訓を忘れず市民のための防災のあり方考える会(略称・防災を考える市民の会)」を結成してから早いもので、皆様のご協力のもと9周年を迎えることができました。

毎回好評いただいております集いの記念講演は、片寄俊秀・大阪人間科学大学教授に来ていただけることになりました。

片寄教授は、商店街が衰退し、地域風土が喪失、地域コミュニティが弱体化する開発至上主義が迷走している現在の日本の中で、様々な問題や困難があると思われるまちづくりにおいて、住民とともに実践的に活動される中で、数々の輝いたまちをつくってこられました。

今回の講演は、宇治川含む宇治全体の治水防災対策はどうあるべきか。私たちが何をしなければならぬのかなど、その基本を全国的な視点から見つめなおす記念講演になると確信しています。ぜひご参加ください。参加は自由です。当日直接会場におこしください。

毎年恒例になりました「講師を囲む懇親会」を終了後、開催します。



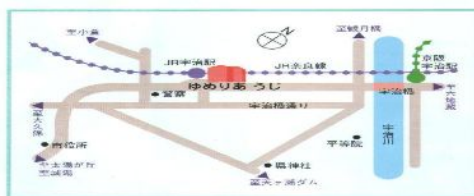
今回は、久御山町でも整備計画に対する不安が寄せられていますので、集いの二部として久御山町民の方々との懇談

会を兼ねて、久御山町の「食堂市番」(電話

075-631-4701)で開催させていただきます。(二部会場への送迎バスを用意させていただきます。)

2月22日9周年の集い ご案内

日時 2月22日(日) 2時~5時
場所 ゆめりあ宇治 会議室1



電話39-9377 JR宇治駅前です。

参加 直接会場にお越しください。尚、資料代等500円のカンパをお願いします。

記念講演

《 花鳥風月のまちづくりに向けて
—いいまちづくりが防災の基本— 》
片寄 俊秀 大阪人間科学大学教授

特別報告

《天ヶ瀬ダム再開発の危険性と安心、安全な宇治川治水対策について(仮題)》
中川 学・国土研宇治川調査団より
この他、参加者の皆様も含め多めに議論したいと考えています。

参加希望される方は、事前にお申し込み下さい

参加希望される方は、2月19日(木)までにお知り合いの会役員または会連絡先(電話24-2223)までご連絡ください。会費は、実費4000円です。当日お支払いください。

<記念講演の片寄俊秀(かたよせ としひで)>



教授のプロフィール>

大阪人間科学大学人間科学部環境・建築デザイン学科教授。まちづくりプランナー。国土問題研究会副理事長。工学博士、技術士、一級建築士。1938年生。京都大学建築学科卒業。西山卯三ゼミ。院生時代に京都大学アフリカ類人猿学術調査隊(今西錦司隊長)に参加、設営担当。1962-70大阪府技師として千里ニュータウン開発事業に従事。宅地造成の実施設計等を担当。1970-96長崎総合科学大学建築学科教授。長崎では石橋保存、商店街再生、離島振興、諫早湾保全などの活動に参加。長崎豪雨災害を予言し体験。その後の災害復旧・復興問題に取り組む。1996-2006関西学院大学総合政策学部教授。三田市中心市街地にまちなか研究室を設立し下町と水辺の復権研究に取り組む。国土交通省猪名川河川敷保全利用委員、淀川河川レンジャー選定委員。著書に「ブワナトシの歌」「スケッチ全国町並み見学」「千里ニュータウンの研究」「まちづくり道場へようこそ」「いいまちづくりが防災の基本」「まちづくりの危機と公務技術(共著)」など。

1月18日大震災メモリアル特別企画の「防災シンポ」を開催

ダム周辺の断層、榎島堤防など再開発の危険性 更に明確に

1月18日に大震災メモリアル特別企画の「防災シンポ」を開催し、30名を超える市民のみなさんに参加いただきました。

シンポは、志岐常正「会」代表(京都大学名誉教授)の司会ですすめられ、☆紺谷事務局長が天ヶ瀬ダム周辺に活断層がない。などとする整備局の報告について2002年に発見された宇治川断層も無視しているなど新しい文献資料に基づいて宇治の活断層について報告。また整備局の榎島堤防調査資料を分析した榎島堤防の危険性についても報告されました。



☆国土研宇治川調査団より中川学さん(技術士)が京都府技術検討会中間報告の内容と問題点について「天ヶ瀬再開発・宇治川1, 500ト放流は、塔の島地区の景観や河川環境問題などあまりにも犠牲の大きすぎるものである。にも関わらず府の報告書は、国の資料を何の解説もなしに掲載している。少なくとも客観的な立場でデータを分析・解説することが必要である

のに重要な点が欠落している。」と指摘されました。

☆吉原 稔・弁護士（前ページ写真）より、新幹線栗東新駅起債差止訴訟、2つの県営ダム建設差止裁判、永源寺第2ダム国営土地改良事業計画取消訴訟、豊郷小学校校舎解体禁止、町長の損害賠償裁判、県の行政委員の月額制報酬支出の指止訴訟等々連戦連勝を重ねる闘いの秘訣について報告をいただきました。行政委員の月額制報酬支出の指止訴訟では1月22日、大津地裁で全国初の勝訴判決を勝取られ、新たな前進を築かれています。

ご 報 告

宇治・防災を考える市民の会 機関紙「鐘 鉦」



日本機関紙協会京滋地本08コンクールで「審査員特別賞」に

日本機関紙協会京滋地方本部による「2008京都・滋賀機関紙コンクール」が開催され、防災を考える市民の会機関紙「鐘 鉦」が「審査員特別賞」に入選しました。このほど「参加紙批評」が送られてきましたので、ご照会し今後の取り組みに生かして行きたいと思えます。ありがとうございました。以下、「参加紙批評」全文です。（事務局）

ダム開発の危険性を具体的に暴いていく貴重な内容の機関紙です。不定期とはいえ、運動の進捗を伝えています。

70号(7/20)では、近畿整備局の「再開発計画案」発表を詳細に批判しています。その上で7月10日におこなわれた現地調査会(槇島・塔の島・天ヶ瀬)の様子を報じています。

73号(10/25)では、流域委員会の「(ダムは)不適切・不要」意見書を受けて、京都府や宇治市への申し入れを行ったことを報じています。

国の河川整備、防災対策事業というマンモスのような敢然と立ち向かっていく住民組織の動きが、リアルに伝わってきます。公共事業の是非をめぐって、これだけ系統的・専門的に分析され編集された住民運動の機関紙は稀有な存在でしょう。

地質学者、防災情報の権威、建築学者などから協力を受けて、よくこれだけの資料を集めたという驚きがあります。昭和28年の南山城水害時の写真など非常に貴重です。

豊富な資料で、国土交通省の強引なダム建設事業推進に“特った”をかける力を秘めた機関紙に仕上げられました。そのご努力に敬意を払って、審査員特別賞を贈ります。

機関紙・宣伝物としてみた場合、これだけの詳しい資料を圧倒的多数の市民に即座に理解させるのか？ の疑問が生まれます。資料を詳細にまとめるパンフものと、要約されたポイントだけを掲載するドラ この使い分けが必要なのではないのでしょうか。

宇治川河川改修、天ヶ瀬ダム再開発問題はこれからが正念場です。科学的な分析、費用対効果の財政分析、などの詳細な情報の宣伝と、ポイントを絞った宣伝物。この2種類を使い分けての住民宣伝で、無駄な公共事業ストップの大運動を展開されることを願ってやみません。

宇治川の「泥」汚染 宇治田原町の「大規模茶畑造成工事地」

からの「泥」流出が原因か 「会」現地聞き取り調査を実施

1月30、31日と降った雨で宇治川が泥で汚染されています。

ダムより下流で宇治川に流入する志津川などが全く濁っていない（右の写真。宇治川に流入する志津川）のになぜかと思い、2月1日に「会」事務局で調査したところ天ヶ瀬ダムに流入する田原川が汚染しており、田原川に流入している宇治田原郷の口付近の谷あいの河川から黄色に濁った水が流入している（写真下。田原川を汚染する造成地からの流入水）ことがわかりました。



この河川の横に居住されている松岡さん（下の写真。左の建物が松岡さんのお宅）の奥さんの話では、宇治田原町がくつわ池付近で造成中の大規模集団茶園からのものであることが判明しました。



松岡さんの話によると、「町から事前の説明もなく突然工事をされて困っている。少しの雨でも黄色の水が流れる。昨日はもっと濃い色であった。去年の夏には溝一杯流れた。大雨が降れば家を直撃するのではと心配で夜も寝られない」とのことでした。さらに「町に言っても何も解決されない。どうしたらいいか困っている」と不安を語っておられました。

この間発生している宇治川汚染の要因の一つに宇治田原の集団茶園工事（右の写真。）が関係しているのではとも考えられます。詳細は後日報告します。

